

会長の時間 ●富田会長

本日は、ロータリーの中核的価値観についてお話させていただきます。

ロータリーの中核的価値観は、守るべき組織文化の価値観または基本理念とされ、組織の考え方と方向性を定める原動力であり、特に戦略計画に於いて重視される価値観とされています。

そして、中核的価値観の精神こそがロータリーの変わらぬコアの部分であり、ロータリー自体は時代と共に変容して行きますが、「ロータリーらしさ」は不変とされています。

ロータリーの中核的価値観とは、奉仕 (Service)、親睦 (Fellowship)、多様性 (Diversity)、高潔性 (Integrity)、リーダーシップ (Leadership) の5つで、これらは「ロータリーの目的」、「四つのテスト」、「五大奉仕部門」の中でも表されています。

具体的には、我々ロータリアンは、親睦を通じて生涯に亘る友情を育み、国や文化を超えた理解を促します。我々は、高潔性を以て約束を守り抜き、倫理を守ります。多様性を誇るロータリーは、様々な考え方をつなぎ、多角的なアプローチで問題に取り組みます。我々は、奉仕を通じてリーダーシップと職業のスキルを活かし、地域社会の問題に取り組みます、と説明されています。

更にこの5つの価値について詳しく説明すれば、ロータリーの「奉仕」とは、相手のニーズにマッチするように努めることで、ロータリアンが、職場、家庭、地域などで、奉仕を利他や忠恕の心を以て実践することです。つまり、ロータリーの奉仕とは、行為以前に「心の在り方」の問題でもあります。「親睦」は、友愛とか同志とかの精神性を指します。

「多様性」は、かつて「多様性」が迫害や紛争や差別の原因となったことから、「ロータリーの寛容の精神」となりましたが、それは、異質な存在を受け容れて互いに尊重し、立場を超越して心を通わせることを目的とした世界理解の願いが込められた価値観です。

「高潔性」は、倫理原則を貫く完全性を差し、「四つのテスト」の「真実かどうか」が試金石となります。「リーダーシップ」は、ロータリーは、奉仕活動自体のみを重視する組織ではなく、人づくりの組織であるため、ロータリアンは、リーダーとして自覚とそれに伴う自負が求められます。

最後に、今週、ビッグモーターの保険金不正請求が大きなニュースになりましたが、私は今こそロータリーの中核的価値観の素晴らしさを再認識した次第です。

また、私は、ロータリーが、ロータリーが常に中核的価値観を守り、行動指針とすることが最重要と考えますが、同時に、新しい現実を見据え、ロータリーがこれからも時代の要請に対応できるように努めることもロータリーの存続には重要と考えています。